ま　え　が　き

下伊那視聴覚教育協会　会長　武井　利博

令和 4 年度も新型コロナウイルス感染症に振り回された 1 年でした。夏休み前から始まった第 7 波、第 7 波が少し落ち着いたかなと思ったら 11 月には第 8 波となり年度末を迎えようとしています。しかし、オミクロン株になってからは県の感染警戒レベルが高くても、以前のような行動制限がでなくなったため、学校では感染対策を十分に行えば従来に近い状態で行事等を行っていたのではないでしょうか。

さて、このような状況でしたので大きな影響を受けた情報・視聴覚教育に係る行事等は、5 月の視聴覚協会の総会が書面採決、11 月の長野県視覚・放送・情報教育研究大会上高井大会では、研究授業は上高井郡内だけの参観、全体会、講演会はオンラインでの視聴となりました。

下伊那視聴覚教育協会が大事にしている下伊那視聴覚・情報教育研究大会や情報・視聴覚委員会が大事にしている情報・視聴覚実技講習会は、どちらも感染警戒レベルが上がっていたときだったのですが、「GIGA スクール構想」によって一人一台端末を使った授業をより高めるために必要だったので、感染対策をとった上で実施いたしました。どちらも、参加した先生方からは好評で、やはり実際に授業を見て語り合う、実際に操作をするというリアルな体験なくしては授業のスキルアップにつながらないと感じました。下伊那視聴覚・情報教育研究大会の会場校の泰阜小学校、泰阜中学校の先生方には、授業の準備だけでなく、感染対策にもご尽力いただき、誠にありがとうございました。また、オンラインで道徳の授業に参加してくださった売木中学校の生徒、先生方ありがとうございました。この「視教だより」に指導案等を掲載いたしますので、参考にしていただければと思います。

それから、私は今年度校長会の ICT 教育研究委員会で、例年年度末に行われている政府統計の調査「教員の ICT 活用指導力等」の調査結果も分析、考察し、令和 2 年度と令和 3 年度のデータを比較しました。ここでわかったのは、大きく 2 つでした。

①「できる」教員の割合が大きくなった。「ややできる」教員ができるようになってきている事を指していた。これは、各校で一人一台端末を活用しての授業が盛んになってきた結果と思われる。

②「あまりできない」「ほとんどできない」教員の割合が令和 2 年度と令和 3 年度でほぼ同じであった。この結果は、ICT の活用をかたくなに拒否しているのか、ICT の活用に時間を割けないのか。「あまりできない」「ほとんどできない」先生方の実態等を見極める必要がある。

そこで、この様な実態があるので、来年度も情報・視聴覚委員会では、夏休みに行われた情報・視聴覚実技講習会で、一人一台端末での指導初心者向けに、多くの学校で活用されている Google

Classroom の基本操作と学習活動での利用について講習会を行う予定でいます。先生方が必要とする内容を個別聞いて、一人一台端末がより活用されるように支援していきたいと考えています。

第 85 号となるこの「視教だより」は、コロナ禍ということもあり、今年度も紙面での配布は行わず、Web のみでの公開とさせていただきますが、下伊那視聴覚・情報教育研究大会の泰阜小学校、泰阜中学校の実践を参考にしていただき、今後の情報・視聴覚教育にお役立ていただければ幸いです。

下伊那視聴覚教育協会では、各市町村からいただいている負担金をもとに、毎年ＤＶＤ教材を購入・更新して下伊那教育会館別館にある視聴覚ライブラリーで貸出しをしています。下伊那教育会のホームページからそれらの教材を閲覧することができますし開館日時も確認できます。こちらも是非ご活用ください。

第６５回　下伊那　視聴覚・情報研究大会

理科学習指導案

日　時　：令和４年１１月２１日（月）
指導者　：南信教育事務所　学校教育課　指導主事　川下　高志先生
単元名　：「流れる水のはたらき」
授業学級：５年生　　男子６名　　女子１３名　計１９名
会場校　：泰阜村立泰阜小学校　集会室
授業者　：清水　海亜　教諭

一　研究テーマ

思考力・判断力・表現力の育成を目指した指導法の工夫

二　テーマ設定の理由

本校の児童は実験や実習などといった実践的な活動に対しての興味、関心が高い。本研究に関わる理科の実験や観察においても意欲的な取り組みは見られるが、自分自身で課題設定をし、見通しをもって取り組むことが苦手な児童が少なくない。また、これまでの自分自身の経験を根拠に結び付けて考えることが苦手であるため、実験結果や事実がそのまま書かれるのみで、予想、見通しに沿った深い考察へとつなげていくことが難しい児童もいる。

理科の学習において、児童の思考をその場限りの単一のものにするのではなく、前後に考えたこととつなげることで、一貫した思考を促すための方法を模索していくことが課題として浮かび上がった。今回は、昨年度、全児童に導入されたタブレットを始めとしたＩＣＴ機器の効果的な活用方法を探りながら、思考力・判断力・表現力のより一層の育成を目指した指導法を探りたい。本研究では理科の授業の中での活用方法を検討する。個々が立てた予想、見通しを振り返って、もう一度検討する場面、観察、実験の場面、実験結果を整理する場面、結果を考察する場面、学習内容を自分なりの言葉で表現する場面等、を関連付けて思考を促していきたい。

以上のような点を踏まえ、視聴覚機器の活用を図りつつ、観察実験を通して一人一人が課題意識を明確にもち、問題解決をする中で、科学的な思考力、判断力、表現力を得られるような学習のあり方を探りたいと考え、本テーマを設定した。

三　研究内容

１　７月１４日の事前授業から示唆されたこと

５学年　単元「花のつくりと実」
学習課題「顕微鏡を使って、色々な花の花粉を観察しよう」

（１）成果と課題

＜教科会より＞

①根拠をもって予想を立てる

第一に根拠をもって予想を立てるという活動があったが、各自の選んだ花が様々であったため、根拠といえる内容のものであったかどうかと考えると曖昧なものもあった。後述するが、児童の興味、関心をひくためであれば、複数の花粉を用意することは効果的であるが、今回の活動においては中途半端に終わってしまったと思える場面もあった。ゆえに、花粉をとる花を多く用意しすぎたという反省点が挙げられる。また、違う見方でいえば、それぞれの花を観察する視点をより明確にし、似たような活動に十分に慣れさせることも必要だと思われる。

②顕微鏡を用いて観察

前述する内容と重複するが、児童が自ら、観察するための花粉を教師側で多く用意したことで、活動に対する意欲が向上していたことは、様子からして明らかであった。しかし、花粉が複数あったため、児童に統一した、見方を指導するといった点で、十分に手が行き届かず、観察力、考察力の低い児童にとっては、中身のある観察は難しかった。前時で、ズッキーニの観察をするために、観察のための視点として、「色、形、大きさ」を主軸として与えていたが、それが十分に定着していなかったともいえる。

③今後の課題を踏まえた手立て

実験、考察の際に与える材料をしぼることで、見る視点を明確にし、意味のある予想、根拠、実際の結果、考察を導き出すことができるようにしていくこととする。

＜授業全体の流れの中での反省点＞

① 導入

予想の理由がはっきりと問われなかったが、児童の中には、「目で見ると白いものがあったから」と、色の違いについて理由付けしている者もいた。そういった声を全体に共有していくためにも、理由を聞き合ってから観察を始めた方がよい。

② 追及

顕微鏡を用いて観察を行った。倍率をうまく合わせられず、適切な倍率を選択できていない児童もいた。形をわかりやすくするためにも、ある程度、使用する植物を統一しておいた方がよいことが、この点からもうかがえる。

③ 終末

最初の予想の答えになっているのかどうか迷うものもあった。本時の学習問題である「花の種類によって花粉の色や形は違うのだろうか」という点を理解するために、

今回のタブレット使用は適切であったのかどうかは再検討が必要である。少人数であれば、今回のような顕微鏡でとらえた像を直接見合うことも可能である。見た映像を振り返ることが本来の目的であるとするならば、あらかじめ、教師が実験中に撮影し、クラウド上で共有することも可能である。撮影することに時間を割きすぎて、本来、時間をもっと割くべき、考察に時間をかけられないのは本末転倒になってしまう。

また、ＩＣＴ活用が可能であるがゆえに、児童自身の考察を、スライドにして、全体の場で発表するという方法も考えられる。発表をさせることで、考えていることを、よりはっきりと発信することになり、思考が深まる。ただし、まとめも含めて、時間確保が課題となる。その点でいえば、タブレット操作には時間をかけられないので、日頃から、タブレット操作に慣れさせることが必要だと考える。

四　学習指導案

１．単元設定の理由

本学級の児童は明るく素直な子どもが多く、学習に対して積極的に取り組むことができる。理科の学習に対しても意欲的で、１学期の「メダカのたんじょう」の学習では、顕微鏡を操作してメダカの卵を熱心に観察する姿が見られるなど、子どもが実験や観察を楽しみにしている姿が見られる。このように、観察や実験などは興味をもって行うものの、生活経験や既習経験と関係付けて予想したり、考察したりする力はまだまだ不十分である。 また、表現する力がまだ身についていない子どもが多く、自分の気づ

きや考えを説明する文章にして表現したり積極的に発表しようとしたりする子どもは限られてしまう傾向が見られる。

これまでに子どもたちは、第４学年「雨水の行方と地面の様子」の学習で、水の流れ方やしみこみ方ついて学習している。さらに、第５学年「天気の変化」の学習で、台風による長野県の自然災害について調べ、流れる水の働きに関心を示す子どもが増え始めている。また、教室から見える天竜川が雨の日は濁って見えることなど、漠然と流れる水のはたらきに関心を示す子どももいる。本単元は、地面を流れる水や川の働きについて興味、関心をもって追究する活動を通して、流れる水の働きと土地の変化の関係についての理解を図り、流れる水の働きと土地の変化の関係についての見方や考え方をもつことができるようにすることがねらいである。

泰阜村には天竜川や左京川、栃中川などの川が存在し、自然体験学習などで川遊びをすることもある。一方で、学校や家庭の近くに学習に適した川が存在しないため、子どもたちは日常生活の中で、河原の石や崖の様子やその違い、川の働きなどについて意識を向けることは少ない。本単元では、実際の川での観察に加えて、モデル実験を行ったり、ＩＣＴを有効に活用したりすることで、より生活経験や既習事項と関連付けながら考え、子どもたちが興味、関心を高めながら主体的に学習に取り組んでいく姿を願い、本単元を設定した。

2. 単元の目標

地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつことができるようにする。

ア 流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。

イ 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。

ウ 雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。

3. 単元展開

時	学習内容	評価規準
1	大雨のときの地面や川の様子を想起したり、雨水が流れている地面の様子を観察したりすることを通して、雨水が地面を川のように流れていることや、流れの速いところと遅いところがあることおよび流れの速いところでは土や石が流れていることに気づく。	○雨水などが地面を流れることによって起こる土地の変化について調べている。（主体的に学習に取り組む態度）
2	雨水が流れた後の地面の様子を観察することを通して、雨水の流れが地面を削ったり、土や石を運んだり、ためたりしていることに気づく。	○雨水が地面を流れた後の様子を観察し、流れた水のはたらきと土地の変化とを関係づけて考えている。（思考・判断・表現）
3 4	土を盛った斜面に水を流して地面の変化を調べることを通して、流れる水には地面を削ったり、土や石を運んだり、積もらせたりする働きがあることをとらえる。	○斜面で水を流す実験をし、水の流れと地面の変化との関係について考えている。（思考・判断・表現） ○流れる水には地面を削り（浸食）、土や石を流したり（運搬）、ためたり（堆積）するはたらきがあることを理解している。（知識・理解）
5	川岸が浸食されていたり、川原に石や砂が堆積したりしている様子を比較観察することを通して、浸食されているところの流れは速く、石や砂が堆積しているところの流れは遅いことをとらえる。	○流れる水の大きさの力を考え、流れの速さによるはたらきの違いを調べている。（主体的に学習に取り組む態度） ○斜面でのモデル実験で見出した流れる水のはたらきを、実際の川の流れや川原の様子に当てはめて

		考えている。（思考・判断・表現）
6	流れの遅いところと速いところの川底の様子を観察したり、小石や砂を水中に入れて流され方の違いを比較実験したりすることを通して、水の流れが速いところは運搬するはたらきが大きく、遅いところははたらきが小さいことをとらえる。	○流れの速さの違う川底の様子や水中での小石や砂の流された方の違いを調べている。（知識・技能） ○水の流れの速さと川原の浸食するはたらきや土や石を運搬するはたらきを関係づけて考えている。（思考・判断・表現）
7 （本時）	斜面に水を流してカーブの流れる水のはたらきを観察することを通して、カーブの外側では浸食や運搬のはたらきが大きく、内側では堆積のはたらきが大きいことをとらえる。	○カーブの内側と外側の様子の観察やはたらきの違いを調べている。（知識・技能） ○カーブの外側では浸食や運搬のはたらきが大きく、内側では堆積のはたらきが大きいことをとらえている。（思考・判断・表現）
8	川の様子や川原の石を観察したり、インターネットや図鑑などの資料を活用したりすることを通して、上流から下流にいくにしたがって川の流れが緩やかになり、川幅も広がり、川原の石は角が取れて小さくなっていくことをとらえる。	○川の上流、中流、下流の様子を観察したり、資料を活用したりして、川の様子や川原の石の変化を調べている。（知識・技能） ○川の様子は上流から下流にいくにしたがって、流れが緩やかになり、川幅も広がり、川原の石は角が取れて小さくなっていくことをとらえている。（思考・判断・表現）
9 10	実際の川の流れを想起し、斜面に流す水の量を変えて流れる水のはたらきを調べることを通して、流す水の量が増えると水の流れが速くなり、浸食したり運搬したりするはたらきが大きくなること、流れの緩やかなところではたくさんの土などを堆積させるはたらきがあることをとらえる。	○斜面でのモデル実験で、条件を統一し、流れる水の量を変えて比較実験している。（知識・技能） ○流れる水の量が増えると流れる水のはたらきが大きくなることをとらえている。（思考・判断・表現）
11 12	流れる水の量と流れる水のはたらきの関係を想起し、川の水かさが増えた後の川の様子を観察することを通して、川の水かさが増えたり流れが速くなったりすると、浸食するはたらきや運搬する働きが大きくなり、川岸が削られて川の流れが変わる場合があることをとらえる。	○大雨が続いたときの水の流れと川かさが増えた後の川の様子の観察から土地の変化を調べている。（主体的に学習に取り組む態度） ○川の水かさが増えたり流れがはやくなったりすると、浸食する働きや運搬するはたらきが大きくなることを理解している。（知識・技能）
13	大雨や大水などによる災害の資料を活用しながら災害の様子を調べることを通して、雨が短時間に多量に降ったり、長い時間降り続いたりすると、増水による川の氾濫や土石流、山崩れなどの災害が引き起こされて、土地の様子が大きく変化する場合があることをとらえる。	○資料を活用して、大水が出たときの土地の変化についてとらえている。（思考・判断・表現） ○大水が続くと、流れる水量が増え、速さも増し、土地の様子を大きく変化させる場合があることを理解している。（知識・技能）

4. 主　眼

川の流れの速さによる流れる水のはたらきの違いに気づいた子ども達が、川のカーブしている場所の流れる水のはたらきを調べる場面で、流水装置の斜面に水を流してカーブを流れる水の様子を観察することを通して、カーブの外側では浸食や運搬のはたらきが大きく、内側では堆積のはたらきが大きいことに気づくことができる。

5. 本時の位置

前時：水の流れが速いところは運搬するはたらきが大きく、遅いところははたらきが小さいことをとらえる。

次時：上流から下流にいくにしたがって川の流れが緩やかになり、川幅も広がり、川原の石は角が取れて小さくなっていくことをとらえる。

6. 指導上の留意点

・流水装置に水を流す際は、水を一度に流しすぎないように注意するよう促す。

・実験の様子を写真や動画に撮る際は、タブレットの位置を固定して撮影し実験の前後を比較できるように記録することに気を付けるとともに、実験中は自分の目で観察するよう確認し撮影に集中しすぎないよう注意を促す。

7. 展　開

段階	主な学習活動	予想される児童の反応	教師の支援・評価	時間
導入	１本時の課題を把握する。	(学習問題)川のカーブしている場所の流れる水のはたらきはどうなっているのだろうか		4
		・流れる水には３つのはたらきがあったね。 ・川のカーブの外側と内側では流れる水のはやさが違うんだったね。	○砂場に水を流した実験の様子を写真や動画で提示し、砂水を流したときの土地の変化を想起させる。 ○前時までの学習内容を振り返り、曲がって流れているところの内側と外側の流れの速さを確認する。	
展開	２川のカーブの流れる水の働きについて考察する。	・カーブの外側の方が内側より流れが速かったな。 ・内側と外側では流れる水のはたらきが違うのかもしれないね。	○タブレットで撮影した動画を視聴できるようして、気になるところを確認できるようにする。	３５
		【学習課題】流水装置の斜面に水を流して、カーブを流れる水の様子を観察しよう。		
	３班ごとに実験する。	・はじめにカーブを作っておいて水を流すんだね。 ・カーブの外側がたくさん削れているよ。 ・カーブの外側の割りばしは倒れてしまったのに、内側の割りばしはまだ倒れていないよ。 ・カーブの内側はあんまり削れていないのかな。 ・カーブの内側は砂がたまっているように見えるよ。	○流水装置を使って実験をする。実験の手順、制御する条件、操作上の注意を確認し、実験方法の見通しをもつことができるようにする。 ○実験前の様子と実験後の様子を写真撮影するようにし、実験が終わった後で変化を比べることができるようにする。 ○割りばしをカーブの内側と外側に差し、削れ方に違いがあるのか観察しやすいようにする。 ○タブレット内にあるカメラ機能を使用し、実験の様子を班で撮影し、必要に応じ、実験後に確認することができるようにする。	
	４全体で結果をまとめる	・カーブの内側では砂が堆積していたよ。 ・実験前と比べて、カーブの外側が大きく削られているね。 ・カーブの外側の方が浸食す	○班で結果を話し合う際に、実験前と実験後の写真を見比べて、変わったところを確認するよう促す。 ○必要に応じて、撮影した動画を視聴し共有することができるようにする。	

		る力が強いんだね。		
まとめ	４本時の学習を振り返る。	・カーブの外側と内側では流れる水のはたらきは違っていたね。 ・天竜川でもカーブしている内側には砂が堆積しているよ。 ・カーブの外側では大きく削られているね。	○天竜川のカーブしている場所の写真や映像を見て、実際の川でも実験と同じはたらきがあることを確認する。 （評価）カーブの外側では浸食や運搬のはたらきが大きく、内側では堆積のはたらきが大きいことに気付いている。（発言・ノート）	6

参観の際に見ていただきたい観点

①流れる水のはたらきを観察する視点を川のカーブにしぼることで、見る視点を明確にすることは子どもたちが水のはたらきを理解することにつながったか。
②予想を立て、理由を友達と共有することが、その後の活動で主体的に学習に取り組む姿につながったか。

第 65 回 下伊那視聴覚・情報教育研究大会　道徳　学習指導案

日　　時	： 令和 4 年 11 月 21 日（月）　第 5 校時
授業学級	： 2 年 1 組　男子 7 名　女子 12 名　　計 19 名
指導者名	： 山浦貞一　信州大学大学院教育学研究科　特任教授
授 業 者	： 倉田　佳和
内容項目	： D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること (22) よりよく生きる喜び
主　　眼	： 学校生活の中で仲間とかかわってよりよく生きようと願う生徒が，「手品師」の「彼」の行為について考え，自分の立場を決め，自らの思いを友と語り合うことを通して，よりよく生きるために大切にしたいものが何かを考えることができる。

Ⅰ　研究テーマ

＜令和４年度全校研究テーマ＞

自分のよさや友のよさを理解し，自ら学びに向かうことのできる授業を目指して

～「主体的・対話的で深い学び」を軸とした泰阜の学びの構築～

＜令和４年度道徳研究テーマ＞

豊かな感性と確かな行為力を育て，よりよい生き方を求めて主体的に行動できるための道徳実践力の育成

＜道徳重点目標＞

・望ましい生活習慣を身につけ，自他の生命を尊重する生徒を育てる
・互いの人格を尊重し，感謝と思いやりの心を持つ生徒を育てる
・主体的に集団や社会に関わり，協力して活動できる生徒を育てる
・よりよく生きようとする人間の良さを見いだす

Ⅱ　研究内容

１　授業づくりの方向

（１）本年度採用教科書「中学道徳　きみがいちばんひかるとき」（光村図書）の教材を中心に年間指導計画に沿って行う。

（２）多面的・多角的に考える機会をもつため，学年単位の授業だけでなく全校での道徳の授業を随時行ったり，ICT 機器を用いて他校の生徒とつながったりする。

（３）目的に応じて一人一端末を活用し，グループ学習を取り入れる。

（４）生徒の学びを評価する道徳の学習活動に着目し，道徳的価値についての理解をもとに「生徒が一面的な見方から，多角的・多面的な見方へと発展しているか」，「道徳的価値の理解を自分自身との関りの中で深めているか」という視点を重視して評価していく。学習カードやポートフォリオをもとに生徒の変容を実感できるようにする。

（５）生徒の学びを学級通信などで発進すると共に全ての教育活動で学びを深める。

２　他校とつながる ICT 機器の利用にかかわって

（１）一人１台のタブレット端末を使い，Google Meet を用いてオンラインでつながる。

（２）スプレッドシートを使って生徒の班を提示し，各班の班長が Meet の Host となり URL を上げ，それを共有することで，各グループが話し合い活動を行う。

３　教材にかかわって

（１）道徳的価値

「２２　よりよく生きる喜び」

「よりよく生きること」はよいと理解しているものの，「人間はひとくきの葦にすぎない。自然の中で最も弱いものである。」というパスカルの言葉の通り，風にそよぐ葦のようにはかなく弱いものである。しかし，自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるように，先人の気高い生き方などから，内なる自分に恥じない，誇りある生き方，夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。

（２）教材のあらすじ

腕はいいがあまり売れない２人組の手品師の「私」と「彼」。その日のパンを買うのもやっとのありさま。しかし，大劇場に立つことを夢見て腕を磨いていた。ある日，彼はひとりぼっちの男の子に出会い，さびしそうな男の子を手品で元気づける。そして，明日も来ることを約束する。その晩，私の友人から大劇場への誘いの連絡が入る。私は彼にそのことを告げ、すぐに友人のもとへ行くことを提案するが、彼は「あしたは行けない」ときっぱりと断る。 そして私も誘いをあきらめる。翌日私は，男の子の前で手品を演じる彼を見かける。

（３）生徒の実態と本時に寄せる担任の願い

本校２学年の生徒は，どちらが自分にとって有利であるか，双方がうまく収まる方法は何かなどを考える場面で，自らの良心を偽って行動をしてしまう傾向がある。自己を明るくよりよく向上させるために，生きる上で自分が大切にすることを考え，他者の意見を聞き，揺らぎながらも自分の考えを再構築していくことが大切だと考える。 本学級の生徒は真面目で素直な子どもたちであるが，自分の得にならないことや面倒なことには関わらない傾向が見られる。また，「どうすれば相手が怒らないか」,「めんどくさくないか」と本質とずれた思いで行動したり周りに流されたりする傾向がある。さらに，保育園時より固定されたメンバーの中で，意見を言い合う場面では「この人はこう言うよね」と予測ができ、意見の広がりが少ない。そこでオンラインを使い生活環境が違う他校の生徒との意見交換をすることで多面的・多角的にものごとを考える機会を増やしたい。

本教材「手品師」の「彼」の行為から，「自分が生きる上で大切にしたいことは何か」について生徒は自分の考えを広げたり深めたりすることができると考え，本教材を設定した。

（４）本時の授業に至る経緯と本時の授業で観ていただきたいこと

本研究大会での公開授業への取り組みを特別なものとはせず，日々の授業の充実につながる取り組みにしたいと考え，実践を積み重ねてきた。また，小規模学校では，人間関係が固定化されてきしまう傾向が強いため，意見交換の場面ではなかなか広がりをもつことが難しく，多角的・多面的な見方・考え方ができにくくなっている。そこでオンラインで他校の生徒と共に考えたり，話したりする場を設定し広がりを持たせたいと考えている。売木中学校とは９月に自己紹介，１０月に「権利の熱気球」，１１月に「カーテンの向こう」をオンラインでつなぎ，グループで話し合う場を設定して学習を進めてきた。グループは基本的に同じメンバーで固定している。

本時の授業でも，本校２年生１９名と売木中２年生６名が，４名づつ６グループを作り，「手品師」の「彼」の行為について，タブレット端末を用いて自らの思いを友と語り合う。道徳という私たちの内面的な心情や考えを伝え合う場面で，少人数学校での、多角的・多面的な見方・考え方を広げるのにタブレット端末は有効であるか否かを，生徒たちの話し合いの言葉から観ていただきたいと考えます。

Ⅲ　道徳科学習指導案

1　教材名「手品師」

2　内容項目　D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること（22）よりよく生きる喜び

3　主眼

学校生活の中で仲間とかかわってよりよく生きようと願う生徒が，「手品師」の「彼」の行為について考え，自分の立場を決め，自らの思いを友と語り合うことを通して，よりよく生きるために大切にしたいものが何かを考えることができる。

4　本時の展開

段階	学習活動	予想される生徒の発言・心の動き	◇教師の指導・援助・評価	時間	備考
導入／	1　学習することを確認する。 2　教師の朗読を聞き，内容を整理して思ったことを書き出す。	ア　どんな事を学習していくのかな。 イ　約束について考えるのか。	◇「約束」と示し，細かいことは伝えず，約束は守るべきかどうか聞き，集計し提示。 ◇資料を配布し，教師が読む。	５分	アンケート 電子黒板
		発問①「えっ」と驚いたこと、「すてきだな」「大切だな」と共感したことを書き出そう。			
展開	3　問いに対する自分の立場を決め出し，友と語りながら，考えを深める。 ①　個人 ②　グループ ③　全体	ウ　話の内容は理解したぞ。 エ　難しいな。 オ　自分なら夢を追うぞ。 カ　約束の内容次第かな。 キ　「彼」は生活よりも約束を大事にしたことに驚いた。 ク　自分が「私」ならどうしよう。 ケ　男の子を前にして，どんな表情で手品をしているのかな。 コ　約束と夢，この場合の選択はどちらが正解なのかな。	◇「彼」の選択についての意見や「私」の立場にふれている意見を取り上げ発表できるように促す。	５分	ワークシート記入 ワークシート記入
		発問②あなたが「彼」だったら男の子との約束を守りますか。（中心発問）			
	5　本時の学習を振り返る。	サ　約束は守るべきだと思うから，男の子との約束を優先するな。 シ　場合によって約束は守らなくていいと思うし，男の子との約束より夢をとるべきだな。 ス　約束は守るべき，でも夢という自分や「私」との約束も果たすべきだと思うから，男の子との約束は守らないかも。 セ　約束は場合によって守られないこともあるけれど，男の子のことを考えると男の子との約束を優先するかな。 ソ　生きることは大変だから，ステージに立つことを優先し，後で男の子に説明しようかな。	◇子供たちが立場を決めだし，意見交換が活発になるように，導入の集計を掲示する。 ※ここで Meet につなぐ ◇jamboard を用いて心情メーターに自分名前を貼り，立場を明確にする ◇ワークシートに，理由も含め自分の意見を書き，班で共有する。司会者が話し合いを進めるよう促す。 ◇グループ内では，自分と共感できる意見は赤線を引き，新たな発見は，赤で書くよう促す。 ◇考えた意見を発表し，全体で共有をする。生徒同士の指名により発言をつなげていく。	１０分 個人追究 １５分 グループ追究	Meet
		振り返り　今回の道徳で感じたことを振り返りカードに書こう。			
終末		タ　男の子との約束を守ったことでチャンスは逃したけれど，男の子を喜ばせることを大切にしていたな。約束を守ることに価値があるのかな。 チ　男の子との約束を守ったことで満足感を感じたが，仕事のチャンスを失ったことを少し後悔しているかな。夢を追い続けることに価値があるのかな。 ツ　自分の決めたことを最後まで貫くことが大切なことかな。 テ　他人との約束より，自分との約束を大切にすべきだよな。	※ここで Meet を解除し，それぞれのクラスでまとめる。 ◇多くの人の話を聞いたうえで，もう一度約束を守るか問う。 ◇記述が進まない生徒には，本時で分かったことなどを入れて感想を書くよう促す。 ◇感想を述べるように促す。 資料を通して自らの考えを深め、「自分がよりよく生きるために大切にしたいこと」を考えることができる。（タブレット）	５分 共有 １０分	ワークシート記入

手品師

　あるところに、うではいいのですが、あまり売れない２人組の手品師がいました。暮らしは楽ではなく、その日のパンを買うのもやっとのことでした。いつかは大劇場のステー ジに立つ日を夢みて、うでをみがいていました。「大きな劇場で華やかに手品をやりたいなぁ」、それが“私”にとっても、パートナーである“彼”にとっても口癖でした。

　ある日、彼は小さな男の子がしょんぼりと道にしゃがみこんでいるのに出会いました。男の子はお父さんが死んだ後、お母さんが働きに出て、ずっと帰ってこないというのです。「そうかい、それはかわいそうに。それじゃあ、おじさんがおもしろいものを見せてあげよう。だから元気を出すんだよ」と彼が言いました。彼はぼうしの中から白いハトを飛び立たせたり、色とりどりの美しい花を取り出したりしました。男の子の顔は明るさを取りもどし、すっかり元気になりました。「おじさん、あしたも来てくれる？」男の子は大きな目を輝かせてそう言います。「あぁ、来るともさ」彼が答えました。彼は、明日もまた手品を見せてあげると約束しました。

　その日の夜、私のところへ少し離れた町に住む友人から電話がありました。

「いい話があるんだ。今夜すぐにこちらへ来てくれ。大劇場に出られるチャンスだ」と友人は言います。

「二度とない話だ。これを逃したらもうチャンスは来ないかもしれない。」と友人は続けます。

私は、華やかなステージに立つ自分と彼の姿を思い浮かべました。

その日のパンを買うのもやっとの私はすぐに彼に電話を入れ、

「大劇場に出演するチャンスがあるから、今から友人のところへ出発しよう」と伝えました。

彼は「一日のばすわけにはいかないかい」と言います。

「それはできない。今夜すぐに出発しなければならない」と私は伝えました。

彼は「せっかくだけど、明日は行けない」と言います。

「えっ、どうしてだ。私たちがずっと待ち望んでいた大劇場に出られるんだぞ。これをきっかけに私たちの力が認められれば、手品師として売れっ子になれるんだぞ」と私は伝えました。

「ぼくには大切な約束があるんだ」との彼の言葉に

「そんなに大切な約束なのか」と私は聞きました。

「そうだ、僕にとっては大切な約束なんだ」と言います。

大劇場での手品は、彼と私の２人組でなければ披露することはできません。

　友人に断りを入れた私は、翌日、町をとぼとぼ歩いていました。すると、手品師である彼がたった一人のお客さまを前に、次々とすばらしい手品を演じていました。

あ　と　が　き

下伊那視聴覚教育協会　副会長　手塚 幸宏

新型コロナウイルスの流行から３年目、今年も影響を受けながらでしたがより良い方向を模索しながら歩んで参りました。振り返ってみると少しずつ活動の輪が広がってきた１年間でした。

情報・視聴覚実技講習会は喬木中学校を会場として、「Google Classroom の基本操作と学習活動での利用」について開講しました。昨年の参加者から、次も同じように実施してほしいという要望が多く寄せられましたので、本年度も同じテーマで開催させていただきました。内容については、先生方ひとりひとりに寄り添って、個別の課題にもお答えするようにしました。講師は引き続き喬木村教育委員会の長坂亮介先生にお願いしました。講習後に「共同編集のやり方がわかりよかったです。」、「グーグルドライブについても理解が深まりました。」などの感想が寄せられ、受講者から好評をいただきました。

第 65 回下伊那視聴覚・情報教育研究大会は泰阜小学校(５年理科)と泰阜中学校(２年道徳)を会場に開催されました。大会の開催にあたって泰阜村教育長様から「泰阜村もようやくネット環境が整ってきました。」というお話がありました。へき地･山間地を抱える長野県では市町村により整備状況がまちまちなのが実情です。泰阜村も例外ではなく、これから活用していくという状況の中で、授業を提供していただきました。

小学校の理科では「流れる水のはたらき」について調べました。先生が用意した川のカーブを再現した実験装置を利用して、実際に水を流しその様子をタブレット型ＰＣで撮影しました。撮影した動画を何度も見返しながら、気付いたことをまとめていくところに簡単に撮影･再生ができる端末の利点が生きていました。何より感心させられたのは先生が用意した実験装置でした。具体物と情報端末がうまく組み込まれた授業でした。

中学校の道徳では「手品師」という資料について、本校の１９名と売木中学校の６名がオンラインで意見交流をしました。小規模校は固定された人間関係になりがちで、「あの人ならきっとこう感じるはず。」と予想してしまいますが、今回は違いました。両校で意見を交換する中で、共感したり思いもしなかった意見にハッとしたり１つの資料から考えが深められていく姿がありました。授業が成功したのは先生の教材研究と、事前に両校の交流をオンラインで重ね、当たり前に利用できる環境を整えてきたからでしょう。

会場校におかれましては、校長先生を中心に年度当初より校内の先生方が念入りな準備をしてくださいました。良い学びの場をいただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度は、飯田市の追手町小学校・高陵中学校を会場として、66回目となる大会が予定されております。下伊那視聴覚教育協会では、研究大会、情報・視聴覚実技講習会の運営や下伊那教育会webページの運営を行うとともに、下伊那の情報教育･視聴覚教育発展のために研究を推進しております。関係各位の皆様方にはこれからもご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、当協会の活動をお支えいただきましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和4年度
下伊那視聴覚教育協会組織

顧問賜　　正俊下伊那教育会長(飯田東中学校長)

会計監査委員
　　宮澤　博文　下伊那教育会会計監査委員
　　渡邉　浩　　下伊那教育会会計監査委員

協会長　　武井　利博　喬木中学校長

副協会長　手塚　幸宏　遠山中学校教頭

総務　　和田　佳　　緑ヶ丘中学校

研究　　清水　海亜　泰阜小学校
　　倉田　佳和　泰阜中学校

番組研究　田中　崇　　高森北小学校　理科
　　冨田　寛　　下久堅小学校　理科
　　林　　裕介　下條小学校　　理科
　　新谷　俊博　鼎中学校　道徳・特活・総合

ライブラリー
　　三浦　寛人　竜峡学校
　　清水　海亜　泰阜小学校
　　倉田　佳和　泰阜中学校

ホームページ
　　〇和田　佳　　緑ヶ丘中学校
　　田中　崇　　高森北小学
　　三浦　寛人　竜峡中学校

事務局　　小林　嘉明　協会ライブラリー